

経済水道委員会(2018年5月15日) 江上博之議員 藤井ひろき議員

## 名古屋城天守閣 エレベーター代替案

# 新技術めどなし

木造復元後の天守閣にエレベーターを設置しない市の方針めぐり、15日の経済水道委員会で市当局は、復元完成予定の2022年12月までにエレベーター代替技術を開発できるめどが立っていないことを認めました。日本共産党以外の会派からはエレベーター不設置方針への明確な反対はありませんでした。

### 代替技術無いままの見切り発車

最上階まで上ることが障がい者の要望、との江上博之議員の指摘に、当局は「必ずしも最上階までというのが絶対ではない」と答えました。さらに「代替の新技術は現時点であるか」(江上)に対しては「無い」と答弁。見切り発車であることが明らかになりました。

藤井議員は、障害者のみに特化した技術はそれ自身が差別的だと当事者の声を紹介し、「障害のある人のみならず誰にとっても利用できるエレベーターが必要ではないか」と指摘。バリアフリーという時代の要請に逆行し、名古屋福祉都市環境整備指針の趣旨にも反する公共建築物の建

設は認められないと述べました。

### 「バリアフリーを検討」 (河村市長)はウソ?

河村市長は、「エレベーターを設置しない方針について『(市長選や市議会の議決など)市民の選択で旧国宝のものを復元しようと決まった。もう一回さかのぼるのはおかしい』」(「朝日」)と語ったと報じられています。江上議員は「はなから市長はエレベーターを設置しないつもりだったと言うこと」と指摘。「ならばどうして、2月議会の日本共産党の代表質問に対し『バリアフリーを検討している』と答えたのか」(江上)との問いに当局は答えられませんでした。議会で誠実に答弁しない一方で、「議会の議決」(日本共産党は反対)を持ち出すのは欺瞞的です。

バリアフリー問題一つとっても容易に解決できない天守閣木造復元は、いったん立ち止まるべきです。そのうえで現天守閣の耐震改修も含めて再検討することを日本共産党名古屋市議団は求めます。

## 「エレベーターなし」の名古屋城天守閣木造復元に対する談話

河村市長の意向を受け名古屋市は5月9日の天守閣の木造復元計画を検討する有識者会議の「天守閣部会」に「天守閣にはエレベーターを設置しない」とする方針案を示しました。党市議団は同日、江上博之党市議団幹事長と藤井ひろき議員が記者会見を行いました。

2018年5月9日  
日本共産党名古屋市議団  
幹事長 江上博之

名古屋市は、河村市長に確認の上で、「2022年名古屋城天守閣木造化」に伴うエレベーターを設置しないことを明らかにした。この案に対して、障がい者のみなさんから抗議の声が上がっている。この方針(案)は、バリアフリーに対する時代逆行であり、日本共産党市議団は認められない。この方針(案)ができたのは、河村市長が、「本物」にこだわって木造化を進めているからであるが、現在の技術提案では、耐震化、スロープ、消防設備などの設置を提案しており、どこまでも「レプリカ」に過ぎない。この矛盾を障がい者の方に押し付けるものである。

今回の検討は、「電動車いすでも天守閣の展望階に行けるようにしてほしい」という障がい者の方の申し入れが発端であった。「新しく建てる建物に(エレベーターが)つかないのは、今の時代おかしい」「木造に復元するに

あたって、車いす利用者も天守閣まで見学できるような配慮をしてほしい」という声も出ている。

名古屋市福祉都市環境整備指針(2017年3月)の「はじめに」で河村市長が、「高齢者や障害者をはじめ、すべての市民が安心して快適に暮らせる『人にやさしいまち名古屋』を実現するために、公共建築物をはじめとする市民の皆様が利用される施設について、バリアフリー整備に取り組んできた、としている。さらに、『名古屋市総合計画2018』においても『高齢者や障害者など、だれもが安全・快適で気軽に外出でき、社会活動に参加できる』ことを目指して、バリアフリーのまちづくりをすすめて」とも述べている。

障がい者の願い、市の福祉方針や総合計画にも反して、新しく建設する建物を「史実に忠実」を理由に、バリアフリーに配慮しないことは許されない。



会見する江上博之市議団幹事長と藤井ひろき議員

障がい者のみなさんの願いは当然であり、その願いを実現する立場で市の公共建築物はあるべきである。

市は、「新技術の開発」で将来の可能性を言っているが、現時点での行政責任を放棄するものであり、金銭的にも未知数の施設を前提の計画は市民の理解を得られない。

市民合意のない「2022年天守閣木造化」は、いったん立ち止まり、障がい者の皆さんの声も含め市民の声、党市議団の提案も含めて市民論議を進めることをあらためて求める。